

## 本当は怖い政治の無関心

日本人は政治に無関心な人が多く投票率も低いままです。生活に忙しく、政治のことを考える余裕がないのかもしれませんが。しかし、政治は密接に日々の生活とかわかっています。国民自身が政治を考えないと、結局自分が不利益を被ってしまいます。この文書は、有権者に少しでも政治に関心を持ち、選挙には出来るだけ参加して欲しいという思いから作成しました。

### 安易な諦観はダメ！政治は誰がやっても同じではありません

「誰がやっても変わらない」「自分には関係ない」と、無関心な人は多くいることでしょう。しかし、どんな政党があり、どんな議員がいて、どんな実績があり、どんな仕事をして、どんな国会答弁を行っているのか…それらを把握している人はどの程度いるのでしょうか。よく知りもせず、表面的なイメージだけで判断してはいないでしょうか。しっかりと国と国民のことを考えて政治を行っている人はいます。逆に、議員として相応しくない人もいます。政治に目を凝らさないと、無能な議員、悪辣な議員が跋扈することにより政治が混乱し、国民がツケを払うことになります。

### マスコミは公正ではない！自分で調べることが大切です

正しい判断をするには、正しい情報を得る必要があります。多くの有権者はTVの情報から政治を判断していますが、これだけでは不十分です。TVでは番組を作る側にも技量がある政策の説明や問題点の追及よりも、政局や大衆受けする表面的な話題を好むことが多く、また、以前から著しく公正さを欠いた**偏向報道**が問題となっています(中国・韓国礼賛、民主党寄りの報道など)。

自民党から民主党に政権交代する前、首相は麻生太郎さんでしたが、「漢字の読み間違い」「ホテルのバー通い」「カップ麺の値段」など些細なことを延々と叩かれたり、国会答弁や演説を切り貼りされて悪意のある編集がされるなど、多くの偏向報道が行われました。その常軌を逸した麻生叩きに、海外メディアから**「全くの狂気」**とまで報道されたほどです。

他には**口蹄疫(こうていえき)**をご存知でしょうか。2010年4月下旬に発生し、宮崎の畜産業が壊滅的打撃を受けた災害です。当時の農水大臣である赤松広隆議員(民主)が問題を知りながら海外へ出張し、対応も遅れていたこと、国会で、宮崎の惨状を必死に訴える江藤拓議員(自民)に罵声を浴びせた議員がいたこと、赤松広隆議員の後任である山田正彦議員(民主)が宮崎に責任転嫁する発言をしたこと、どれも問題のある行為ですが、民主党の酷い対応を批判したり、災害の詳しい説明をする報道はほとんどなく、宮崎が危機的状況に陥ってるのに、他の地域ではその大変さがほとんど伝わっていないという異常事態となっていました。まともな報道を行ったのは関西TV、東京スポーツ、やまと新聞、チャンネル桜など、数えるほどしかありませんでした。(これらはすべて事実です。興味のある方は調べてみてください)

マスコミは必ずしも公正な報道を行うとは限りません。偏向報道は何も日本に限った話ではなく、外国(米国など)でもありますが、海外では「マスコミは信用できないもの」という認識が普遍的で、あまり報道を鵜呑みにしません。しかし日本人はマスコミに流されがちです。**「知らない」「調べない」「考えない」**では流されてしまいます。**「知る」「調べる」「考える」**ことが大切です。情報化社会の現在、自ら情報を集め、取捨選択する能力がますます重要になります。

### 情報を集めるには！

#### ■TV番組

たかじんのそこまで言って委員会、ビートたけしのTVタックル、スーパーニュースアンカーの「青山のニュースDEズバリ！」あたりが、政治問題を詳しく放映をしているので参考になります。

#### ■政治ブログランキング URL: <http://blog.with2.net/rank1510-0.html>

政治に関するブログを集めたサイトです。多様な人物が政治経済の話題を取り上げています。

#### ■報道監視まとめWIKI URL: <http://www15.atwiki.jp/houdou/>

偏向報道を検証しているサイトです。報道に振り回されないためにチェックすることをオススメします。

### 選挙は必ず参加を たかが1票、されど1票

#### ■普通の人々が選挙に行かないとどうなるか？

「自分ひとりくらい選挙に行かなくて何も変わらないだろう」と考えている人も多いかもしれませんが。しかし、一般人が選挙に行かないと組織票の影響が強くなり、以下の悪循環が発生します。

投票率低下→組織票の影響が強まる→政治家が一般人より特定団体を重視する→国民不在の恣意的な政治が行われる

政治家は有権者の票がなければ当選できません。商売に例えると、政治家にとって有権者は大切な「お客様」なのです。多くの一般人が選挙に行き、国民のことを考える政治家に投票するようになれば、政治家も自然と襟をただし、真つ当な政治を行おうと努力するようになるでしょう。そして、国民がまともな政治家を選ぶことで、政治の正常化にもつながります。

#### ■ただ選挙に行けばいいというわけではない

選挙に行くことは重要ですが、かといってただ行けばいいというわけでもありません。「TVで見たから」「知り合いに投票を頼まれたから」「適当に投票した」など、よく考えずに投票することは無投票より悪質な行為です。**真面目に投票する人が1万人いても、無責任な投票をする人が100万人いれば意味がありません。**よく考えて投票しましょう。

#### ■入れたいところがないときはどうすればいいのか？

積極的に投票したい候補者・党がない場合も、安易に棄権や白紙投票をすべきではありません。そういうときは**最善を求めるよりも最悪を選ける**という考えで投票すればいいのです。問題のある政党・候補には投票しない、共感できる政策が比較的多い政党・候補に投票する、など消去法による選択です。